

多摩うどん「ぼんぽこ」プロジェクト

発表者 大熊啓朗（梅澤ゼミ 3 年）坂本幸太郎 佐籙俊吾（梅澤ゼミ 2 年）

1. 本プロジェクトの目的

本プロジェクトは、社会福祉法人「時の会」が運営する店舗多摩うどん「ぼんぽこ」の事業を支援させていただくことを目的としている。

2. 本プロジェクトの経緯

多摩うどん「ぼんぽこ」は、障がい者の自立支援を第一の目的に 2010 年 4 月、多摩市聖ヶ丘商店街に開店した。梅澤ゼミは、松本先生、中庭先生より時の会理事長岡崎さんをご紹介いただき、2010 年秋よりこのプロジェクトを開始した。2010 年度は、開店間もない多摩うどん「ぼんぽこ」と周辺の状況について SWOT 分析等を行い、商店街、近隣エリアに関する情報収集を行った。その結果、先ずは地域の方々に「ぼんぽこ」を認知していただくことが重要であると考え、店舗の外装案の提案、HP、チラシ、パンフレット、店内アンケートを作成した。これらの活動は、昨年度の地域プロジェクト発表祭で発表。また、2010 年 3 月 1 日付読売新聞多摩版でも「ぼんぽこ」と我々の活動を紹介していただいた。

3. 今年度の活動と成果

(1) 一周年記念チラシ、暮れのチラシの制作

昨年度の制作物は、店舗側希望により 6 月に行われた多摩うどん「ぼんぽこ」一周年記念で始動した。ゼミでは、新たに一周年記念用のチラシを制作。店舗側でポスティングを実施していただいた。その結果、新規のお客さまも増え、店始まって以来の収益を上げることができた。新規のお客さまの中には「チラシを見て来た」という方が目立ったという。また、「チラシが素朴でよい」という意見もあったとか。学生の手作り感が功を奏したようであるが、経営情報学部の学生としては複雑な心境。

12 月に暮れに向けてのポスティングを考えているというお話を伺い、12 月用のチラシも作成した。

店の収益が上がれば、店で働く障がい者の工賃がアップすることにつながる。そのことで障がい者の自立を微力ではあるが助けることができるのである。

(2) ホームページの更新

店舗では、新商品販売が始まり、季節限定のメニューなどもある。そこで、HP の更新を行った。

(3) 店内アンケートの集計と分析

作成した「店内アンケート」は、テーブルの上に設置された。今年度は回収された「店内アンケート」の集計分析を行った。

また、アンケート用紙の内容についても店長さんのご意見を伺い若干の修正を行った。

(4) 制作したパンフレットは「ぼんぽこ」の方で印刷いただき、各関係機関等にも配布、

ご利用いただいている。

(5)その他の活動

7月9日(土)開催された多摩市障がい福祉ネットワークたまげんき主催「東北地方大物産展 in 多摩」(多摩センター)にボランティアとしてゼミ生13名が参加。東日本大震災被災地の障がい者施設・作業所の復興支援を目的に、被災した施設・作業所の自主製品と東北地方の物産販売を手伝った。当日の収益は被災地の施設に寄付された。また、ゼミ生参加については「協力」として、多摩市ホームページ、ポスター、チラシ3万枚、新聞等に掲載された。

4. 今年度の問題点・改善点

責任の所在を明らかにするため、制作物には全て「企画・制作：多摩大学梅澤ゼミ4期生」と記載させていただいたが、利用客から「この店は多摩大学が経営しているのだと思った」という驚くべき言葉が寄せられた。このことから、印刷物には「デザイン：多摩大学梅澤ゼミ4期生」と記載するように改善した。

5. 今後の課題

今後は、HPの更新を定期的に行いたい。課題は、もっと近隣の方に知っていただくよりよい方法を検討することと、旧多摩聖蹟記念館や都立桜ヶ丘公園を訪れる人々にも足を運んでもらえるような新たなプロモーションを検討していきたい。

また、次年度は、年度初めに1年間の打ち合わせを行う、定期的なぽんぽこミーティングを持つなど継続的な取り組みにし、対応のスピードアップを図りたい。

6. まとめ

多摩うどん「ぽんぽこ」のある聖ヶ丘商店街は、商店街の運営について大きな課題を抱えている。近隣の大型ショッピングセンターにお客を奪われ、商店街全体の利用者が減少していることである。高齢者は市が提供しているバスの無料パスを利用して聖蹟桜ヶ丘駅や永山駅周辺に出た方が便利ということもある。商店街では、2011年3月にスーパー「いなげや」が撤退。引き継いだ「ユアーズ松慶」も2011年秋に閉店。現在は空き店舗になったままで、その後の目途が立っていない。「買い物難民」となり困っている方々もいらっしゃるし、近隣住民も閉店されると不便なので、閉店反対の署名運動を行い店舗継承後は共存のため積極的に買い物をするようにしているが、店舗が軌道に乗りはじめると、安心してしまい利用が減るといふ。民間事業者による老人介護施設がオープンするが、商店街全体の方向性は未だ見えない。

「時の会」理事長は、「ぽんぽこ」を障がい者の自立支援だけでなく、商店街の活性化、お年寄りのケア(うどんの配達等)など地域の拠点として今後その役割を広げたいとも考えていらっしゃるようである。

聖ヶ丘には子どもたちも多く住んでいる。駅と大学間をバスで通過するだけでは見えなかった地域が、「ぽんぽこ」プロジェクトを通して見えるものの変化し、考えることが多くなった。

最後になりましたが、何事も時間と手間のかかる我々の作業にお付き合いいただき、ご迷惑をおかけしている多摩うどん「ぽんぽこ」店長さん、社会福祉法人「時の会」理事長に感謝申し上げます。